

事業所名

こどもパークゆめっこ

支援プログラム

作成日

2024年

4月

10日

法人（事業所）理念	「介護・福祉分野のプロ集団の構築」、「利用者第一主義」、「共育の精神」、「地域福祉への貢献」の4つの理念を掲げ、常に一歩先のスキルを目指し、利用者本位の支援に心掛けながら、いつも利用者から学ぶ謙虚な心を抱き、地域の福祉に貢献していきます。							
支援方針	こどもパークゆめっこでは、『遊びとふれあいの時間＝心と体の成長の時間』と捉え、重度心身障がいを抱えているお子様方にとって「あそび」とは、五感に刺激を与えることで脳の発達を促したり、様々な人達と関わる中で社会性を育てる事が、心身の成長に繋がるものです。こどもパークゆめっこでは、保育士・児童指導員・看護職員・理学療法士など多職種のスタッフを配置しています。専門性を活かし様々な視点からアプローチすることで、子供たちの気づきや発達成長を支援しています。 5領域の取り組みには、1.健康・生活 2.運動・感覚 3.認知・行動 4.言語・コミュニケーション 5.人間関係・社会性があり、一つとして欠かすことが出来ません。 クッキング・季節の活動・野外活動・制作活動・社会参加といった多様な活動とプログラムを通して毎日楽しく充実した時間を過ごすことを目指しています。							
営業時間	9時	30分	17時	30分	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="1137 494 1451 564">送迎実施の有無</td> <td data-bbox="1456 494 1554 564">あり</td> <td data-bbox="1559 494 2170 564">なし</td> </tr> </table>	送迎実施の有無	あり	なし
送迎実施の有無	あり	なし						
支 援 内 容								
健康・生活	<p>① 健康状態の維持・改善 ② 生活のリズムや生活習慣の形成 ③ 基本的な生活スキルの獲得</p> <p>● 具体的な支援内容 健康状態の把握： 利用中における定めた時刻での定期的な検温にて体調観察を行い、体調不良時の把握をいち早く行います。また、自らの体調について意識付けを行い健康な心と体を育て自ら健康で安全な生活を作り出すことを支援します。 健康の増進： 集団活動においてラジオ体操などの基礎運動を取り入れ、体力の維持および運動能力の向上を支援します。また、健康生活の基本となる体づくりを行います。 基本生活スキルの獲得： 個別活動の中で、整理整頓（片づけ）の習慣をつけるための時間を確保します。身の回りを整理して、効率の良い生活を送るために必要な基本的技能を獲得できるよう支援を行います。 構造化により生活環境を整える： 個別活動および集団活動等の中で、さまざまな遊びを通して全体の状況や流れを学習できるように環境を整える支援を行います。また、障がい特性に合わせて、タイミングや状況（全体像）を本人が理解できるように「見える化」するなど分かりやすく構造化します。</p>							
運動・感覚	<p>① 姿勢と運動・動作の向上 ② 姿勢と運動・動作の補助的手段の活用 ③ 保有する感覚の総合的な活用</p> <p>● 具体的な支援内容 姿勢と運動・動作の基本的技能の向上： 日常生活に必要な動作の基本となる姿勢保持や、運動・動作の改善および習得、筋力の維持・強化を図ります。個別活動の中で、椅子や机を用いた支援において正しい姿勢の習得を目指します。 感覚の補助及び代行手段の活用： 保有する感覚器官を用いて状況を把握しやすいように、メガネや補聴器などの各種の補助機器を安全に効果的に活用できるよう支援を行います。 保有する感覚の活用： 保有する視覚、聴覚、触覚などの感覚を十分に活用できるよう、遊具や器具を使った遊びなどを通して支援を行います。縄跳びを使ったタイミングの感覚やバランスの感覚、ボールを使った体の動かし方や強弱の力感覚、方向感覚の習得を目指します。楽しく運動ができるよう、状況（屋内・屋外・広さ・安全の確保）に合わせた道具や方法を用いて支援を行います。</p>							

本人支援	認知・行動	① 認知の発達と行動の習得 ② 空間・時間・数等の概念形成の習得 ③ 対象や外部環境の適切な認知と適切な行動の習得 ● 具体的な支援内容 感覚や認知の活用： 障がい特性に応じた、視覚、聴覚、触覚などの感覚を十分に活用して必要な情報を収集しやすいよう、色、音、絵や文字、道具を用いて、認知機能の発達を促す支援を行います。 知覚から行動への認知過程の発達： 集団活動やグループ活動支援の中で、活動内容（環境）から情報を取得しやすいよう絵ガードやルール表を用いて「見える化」するなど、必要なメッセージを自ら選択し、行動につなげられるよう一連の認知過程の発達を支援します。 数量、大小、色等の習得： 数量の予測、大小の選択、色の認知など作品完成までの流れに関する行動や手掛かりとして活用できるよう、折り紙や色画用紙を用いて千羽鶴などの制作を取り入れながら支援します。また、色積木やブロックなどを用いて特性に合わせた支援を行います。 認知の偏りへの対応： 認知の特性を踏まえ、絵カードやスケジュール表などを用いて自分に入ってくる情報を適切に処理し、自ら選択して安全に正しく行動できるよう支援し、認知の偏りなどひとりひとりの特性に配慮します。また、おやつ提供によって、こだわりや偏食に対する支援を行います。	
	言語 コミュニケーション	① 言語の形成と活用 ② 言語の受容及び表出 ③ コミュニケーションの基礎的能力の向上 ④ コミュニケーション手段の選択と活用 ● 具体的な支援内容 言語の形成と活用： 集団活動の中で「子ども会議」などを行い、議題にそった発表の機会を設ける。これにより具体的な体験や言葉の意味を結びつけるなどにより、体系的な言語の習得、自発的な発言を促す支援を行います。また、自分の考えを伝えたり人の意見を聞き入れて相手の意図を理解するなど、人との相互作用によるコミュニケーション能力の獲得を目指します。 読み書き能力の向上のための支援： 独自に作成した読み書き支援用テキストやプログラミングなどを用いて読み書き能力の向上を目指します。また、文字カードや歴史カルタなどの教材、知育玩具を用いてひとりひとりの能力に合った読みの向上を目指す支援を行います。 コミュニケーション機器（道具）の活用： 集団活動やグループ活動の中で、糸電話や伝言ゲームなどの遊びを通して意思の伝達が円滑にできるよう支援を行います。	
	人間関係 社会性	① 他者との関わり（人間関係）の形成 ② 自己の理解と行動の調整 ③ 仲間づくりと集団への参加 ● 具体的な支援内容 アタッチメントの形成： 話す、聞く、触れるなどのコミュニケーションを通して、人との関係を意識し、身近な人との関係を築き、その信頼関係を基盤として、周囲の人と安定した関係を形成するための支援を行います。 自己の理解とコントロールのための支援： 職員は児童生徒の特性を理解し、ひとりひとりに合わせた声掛け支援、行動支援を行い、自分の出来る事と出来ない事など自分の行動の特徴を理解し、気持ちや感情の調整ができるように支援します。 集団への参加への支援： 個別活動からグループ活動へ順に進め、ひとりひとりの状況や状態に合わせて集団活動への参加を促します。また、受け入れる側（集団）の児童生徒に対して、相手の気持ちや状況などを理解するための話し合いや声掛け支援を行い、安心して集団へ参加できるよう、また参加する方法の習得を支援します。	
家族支援	家族とは日頃から密接に連絡をとり、利用希望日の柔軟な対応、延長支援、短期入所事業所との連携を図っています。	移行支援	移行時には情報の提供、共有を行う。移行に向けての支援目標や支援内容を設定し、本人への発達支援を行っている
地域支援・地域連携	本人に関係する学校、病院等、福祉サービス等との連携。地域イベントの参加等を行っている	職員の質の向上	定期的な事業所内での研修、外部研修への参加と伝達研修の実施
主な行事等	昼食クッキング又はおやつレクリエーション（不定期） 季節に応じて、「バーベキュー大会」、「夏祭り」、「運動会」、「クリスマス会」を開催（家族参加も促進しています）		